

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201054		
法人名	有限会社 量石介護センター		
事業所名	グループホーム親孝行	ユニット名	Y棟
所在地	石巻市須江字沢尻55番地		
自己評価作成日	令和 5年 11月 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 12月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症の方が穏やかに過ごす」事ができるよう親孝行のようにサポートしています。利用者様が日々安心して楽しく過ごせるように職員間で情報を共有し、変化があるときは主治医に相談し対応しています。コロナ感染拡大防止の為これまで行われていた地域の小中学校のホームに來ての交流はできませんが運動会や学芸会には児童からの招待状を頂いています。またホーム内で毎月季節ごとの行事や誕生会を行い皆さまに楽しんでいただけるよう努めています。玄関には入居者様の作成した作品の展示をする場を作り、皆様に見ていただく事で本人の意欲向上につながるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは三陸道石巻港ICから県道251号線を南に約2Kmの道路沿いあり、田園風景が広がる静かな環境にある。開設以来19年、近くにある保育園や小学校との交流、並びに地域の清掃活動に参加する等地域に根ざしたホームとなっている。目標達成計画に掲げた『きつき』を共有しケアにつなげていく』は、日々の観察で何時もと違う言動や表情から入居者の思いを汲み取り、情報を共有し個々に合った対応を実践に繋げ達成している。職員は「笑顔と笑い声」「家庭的で地域との繋がりが良いところ」をホームの自慢としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム親孝行 )「ユニット名 Y棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関・リビング・スタッフルームの常に目の届く場所に掲示し、皆が日々の中で目標の「きづき」を元に個々の状態にあったケアを行い対応している	経営理念・地域理念の他に事業所目標を「きづき」と定め、玄関やリビングに掲げている。目標達成計画に掲げているが、介護現場における「きづき」は支援の根本と認識し、全員で見直し継続としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の為これまで参加していた地域のお祭りや奉仕活動などは中止しているが、小学校との児童から運動会や学芸会の招待状を頂いている	地域の情報は、区長が届ける市報や近隣住民から得ている。近くの集落センター清掃には職員が参加している。小学校の運動会の案内に対して、見学は自粛したが賞品を寄贈し礼状が届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為以前参加していた地域の高齢者の集まりは自粛しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を奇数月に行っているがコロナ禍の為書面開催となっている。委員の方からはその都度意見書を頂いている	奇数月に6回開催(5月以外は書面送付)している。入居状況、ホーム活動や身体拘束適正化委員会の議事録を報告し、メンバーからは感謝の言葉や身体拘束に関する体験談等が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点などに関しては市町村の担当職員に電話等で相談している。生活保護受給者の受入れも行っている為生活保護課との連携を図っている	介護認定更新手続きの他、生活保護受給者の自己負担等について相談している。地域包括支援センターと入居状況の情報等を共有している。市主催の感染症対応の研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束委員会を開催し、推進会議にて議題にし、皆で話し合い、身体拘束について理解することで毎日のケアに取り組んでいる	3カ月に1回身体拘束適正化委員会を開催している。マニュアルの確認と事例検討を話し合い、議事録を職員及び推進会議のメンバーに伝えている。現在帰宅願望の方はいないが、寄り添い傾聴すること、家族と電話で話すこと等で対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや身体拘束委員会にて虐待について学んだり話し合い、又職員間で声かけし合うことで虐待防止に努めている	高齢者虐待防止に関する資料に基づき研修している。気づいた事を管理者に報告し、内容により情報を共有し、ケアに活かす仕組みとしている。「追い詰める言葉掛けをしない」「お互いに助け合う」を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得のための研修等には参加しているが外部研修で学ぶ機会が少なく活用できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を元に説明させて頂き同意を得、疑問や不安などに対してはその都度説明しご理解を頂いている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や通院等の際に要望や意見を頂き運営に反映するよう努めている	利用料支払い時、家族から衣替えや嗜好品が届けられる。コロナの発生があり、外出を控え、面会は玄関に限定している。家族から「一緒に葬儀に行きたい」との要望があり対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見や提案を聞き、ミーティング等で確認し可能な限り反映している	職員の要望で、エアコンや掃除機を買い替えた。資格取得の希望は、費用負担とシフト調整で対応している。ウッドデッキ老朽化の意見に、今後避難経路の方向も含めて、改修を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の成果を把握し、皆がやりがいなどを持つ就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や職員会議での内部研修を行い研修を受ける機会を確保している		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大防止の為同業者との交流は自粛しているが同法人の居宅介護支援の職員と情報を共有し、サービスの向上に努めている	コロナ発生があり、外部同業者との交流は自粛している。同法人の居宅介護支援職員と内部研修(身体拘束・虐待)を合同で行ったり、消防訓練は連携している。調剤薬局に投薬方法などを相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が安心して過ごせるように声がけを常に行い、職員間でそれを共有し不安なく過ごせるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に家族が不安に感じることや要望等を聞き出し安心して生活して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が必要としている支援や要望等を判断し支援を行うよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人を支えていく関係を築きながら利用者・家族・職員間で信頼関係を築いている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に状況を説明し、又病院等の受診の際には可能な限り家族に同行をお願いし、共に本人を支えていく関係を築くようにしている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為面会制限はあるが出来る限り関係が途切れないよう支援に努めている	家族や友人と、電話や手紙の取次等で関係が途切れないよう支援している。月1回訪れる訪問医や理容師と馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握するように努め、プライバシーを保ちながらレクリエーションなどの参加を促し部屋に閉じこもったり、孤独にならないように声掛けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院等に入院された場合にも主治医と相談しながら情報提供や必要とする各機関への連絡や調整を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の意向や希望を把握し職員間でそれを共有し、出来るだけ本人が選択できるようにしている。また意思が伝えることが難しい利用者様には思いを汲み取れるように取り組んでいる	日常生活の中で、個々の気持ちに寄り添い、話を聞くように努めている。意思表示の困難な方は動作や表情から推察し、ゼスチャーを交え、選択肢を提示し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の方から本人のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活状況を聞き、ホームでの生活に反映できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する力等については把握し、出来ることはご自身で行って頂くよう努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に、本人・家族・医師・担当者から要望や意見を聞き現状に即した介護計画を作成し、状況が変化した場合に随時見直しを行っている	介護計画の見直しは短期3ヶ月、長期6ヶ月である。モニタリングを行い、ケアマネや担当者及び家族を交えて話し合い、短期目標を修正している。転倒骨折等、状態に変化があった場合は、随時見直し変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活の様子などを個々に容体表に記録し、毎日の申し送りや職員会議で話し合いを行い現状に即した介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望は何かを常に意識し支援を行い、職員間で話し合うことで柔軟な支援ができるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の暮らしを支えている地域資源を把握するように努め本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を優先し入居前の病院の継続も可能にし、訪問診察を行っている方もいる。大体の方がホームにて月に一回の定期診察を行っている。又体調変化時には主治医の意見をもらい対応している	殆どの入居者は、月1回訪問医の診察を受けている。専門医の受診は家族対応であるが、状況により職員が同行する。車椅子の方は、ホームの車両で送迎する等の支援をしている。看護職員を配置している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に看護師に状況を伝え、相談し指示を仰ぎ利用者が適切な受診が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は家族と主治医との話し合いにて決定している。入院中や退院時には医療連携室の相談員と相談し状況の把握を行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りや医療行為ができない旨説明している。状態に変化がみられた際は主治医と家族が話し合い家族の意向を尊重し事業所と主治医が一体となりチームケアに取り組んでいる	看取りに関するマニュアルを明文化している。状態の急変や重度化した際は、主治医から家族に説明し、家族の意向を尊重する対応をしている。家族の要望で、看取りマニュアルに基づき対応を検討した例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えてマニュアルに沿った内部研修等を行っている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練をコロナ前は消防署、地域住民立ち合いのもと年2回行っていたが現在はホーム内にて避難経路の確認等をおこなっている	夜間想定で2回実施している。訓練後、反省点や改善点を話し合い、次回の訓練に反映するよう努めている。「2回目は想定を変えてはどうか」の意見があった。備蓄は3日分を保有し、発電機も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援する際には声かけや対応に気を配り利用者の自尊心を傷付けないように心掛けている。	名前は「さん」付けを基本としているが、本人の希望で「ちゃん」で呼ぶ方もいる。入室はノックや声掛けを職員は共有している。入浴や排泄介助は可能な限り同性介助とし、羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を話しやすい雰囲気づくりをしている。又本人やご家族の希望を聞き実現できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活に大まかな流れはあるがその日の入居者様の状態や希望を聞きながらその方のペースに合った1日を過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が希望された際には訪問理容の方に来ていただき散髪を行ったり、衣類等については本人の希望を聞きご家族に依頼し持参して頂き本人が満足できるよう支援している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の片づけ等を行ったり、セレクトメニューとして旬の食材や利用者の好きな物を聞きだし提供している	献立は入居者の好みや季節の食材を取り入れ、職員が作る。行事食で寿司を外注したり、流しそうめんや弁当箱に色とりどりのおかずと一緒に詰め、食事を楽しんでいる。献立を栄養士や保健師に相談されたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や1日の水分摂取量を記録し体調管理を行い、また主治医に食事形態や栄養状態等を相談し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや介助にて口腔ケアを行い、口腔ケア用品もその方のあったケアを行っている。また食事の前に口の体操などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄記録をとることで排泄のパターンなどを把握し声がけや誘導をしてできる限り自立できるよう支援を行っている	1/3の方が自立している。排泄チェック表及び個々の排泄パターンや水分摂取量を把握して誘導し、トイレでの排泄に努めている。夜間は安眠を優先し、巡回時様子を見ながらオムツ交換や声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のおやつに乳製品を提供したり、軽運動を行い、各自の排便状況を記録し把握している。排便コントロールの難しい方は主治医に相談し整腸剤等を処方して頂き便状態を観察し申し送り等で共有している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は週2回午前中を基本としているが、入居者の希望や状況により時間をずらし行っている。また香りのよい入浴剤を使用し入浴を楽しめるよう工夫している	週2回午前中の入浴であるが、本人の希望や体調を考慮して時間をずらすこともある。シャワー浴専用の設備があり、全介助の方は2人体制で支援している。入浴剤の色や香りで温泉気分を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や状況に合わせて起床時間、就寝時間等を考慮し、また良眠できるように室温等も定期的に確認するよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方薬の目的や用途などを写真付きでリストを作成し常に確認するようにしている。また薬の変更等があった場合は観察し、主治医に報告や相談をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の能力やできる範囲に合わせて調理関係や洗濯たたみ、また編み物など毎日楽しく生活できるよう支援している		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止の為外出は通院や市内のドライブのみとなっているがホームの庭にてベンチに座り日向ぼっこされたりしている。	コロナの影響で外出を自粛している。玄関ホールのベンチで日向ぼっこをしたり、天気の良い日に庭を散歩して気分転換をしている。例年季節を感じる外出として、日和山や須江の桜並木へ行っていたが、今年は近くの公園の桜を車窓から眺めた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的に事務所の金庫にて管理し、使用の際は来ずお小遣い帳に記載し家族に確認して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙が来た場合は本人に取り次ぎ会話を楽しまれてる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁画や入居者様の作った作品等を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。またエアコンで室内の温度を保ち加湿器等で乾燥をふせいでいる	リビングはエアコンと加湿器で適温・適湿に保たれている。玄関ホールや廊下等共用場所に入居者の作品や小学校からの便り等が飾ってある。クリスマスツリーの貼り絵が季節を感じる。テレビで歌番組や時代劇のDVDを観て過ごす方が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは皆で歌を唄ったりレクの参加や個々で編み物や塗り絵などを行い過ごされている。本人の希望により自室で過ごせるよう支援を行っている		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や位牌など本人の過ごしやすい工夫がされている。身体状況によってベットやエアーマット、手すり等がある	備品は電動ベッドやエアコン、テレビがある。家族写真や遺影、誕生会の色紙や行事の写真等を飾り、思い思いの自分の居室となっている。殆どの方はリビングで過ごすことが多く、居室に居る時間は少ない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりがついている。また個人の身体状況に応じて手引き歩行やカート・自走式車いすなどを使用することで自立した生活が送れるよう工夫している		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201054		
法人名	有限会社 量石介護センター		
事業所名	グループホーム親孝行	ユニット名	B棟
所在地	石巻市須江字沢尻55番地		
自己評価作成日	令和 5年 11月 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 12月 19日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症の方が穏やかに過ごす」事ができるよう親孝行のようにサポートしています。利用者様が日々安心して楽しく過ごせるように職員間で情報を共有し、変化があるときは主治医に相談し対応しています。コロナ感染拡大防止の為これまで行われていた地域の小中学校のホームに來ての交流はできませんが運動会や学芸会には児童からの招待状を頂いています。またホーム内で毎月季節ごとの行事や誕生会を行い皆さまに楽しんでいただけるよう努めています。玄関には入居者様の作成した作品の展示をする場を作り、皆様に見ていただく事で本人の意欲向上につながるよう努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは三陸道石巻港ICから県道251号線を南に約2Kmの道路沿いあり、田園風景が広がる静かな環境にある。開設以来19年、近くにある保育園や小学校との交流、並びに地域の清掃活動に参加する等地域に根ざしたホームとなっている。目標達成計画に掲げた『「きつき」を共有しケアにつなげていく』は、日々の観察で何時もと違う言動や表情から入居者の思いを汲み取り、情報を共有し個々に合った対応を実践に繋げ達成している。職員は「笑顔と笑い声」「家庭的で地域との繋がりが良いところ」をホームの自慢としている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム親孝行 )「ユニット名 B棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関・リビング・スタッフルームの常に目の届く場所に掲示し、皆が日々の中で目標の「きづき」を元に個々の状態にあったケアを行い対応している	経営理念・地域理念の他に事業所目標を「きづき」と定め、玄関やリビングに掲げている。目標達成計画に掲げているが、介護現場における「きづき」は支援の根本と認識し、全員で見直し継続としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為これまで参加していた地域のお祭りや奉仕活動などは中止しているが、小学校との児童から運動会や学芸会の招待状を頂いている	地域の情報は、区長が届ける市報や近隣住民から得ている。近くの集落センター清掃には職員が参加している。小学校の運動会の案内に対して、見学は自粛したが賞品を寄贈し礼状が届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為以前参加していた地域の高齢者の集まりは自粛しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を奇数月に行っているがコロナ禍の為書面開催となっている。委員の方からはその都度意見書を頂いている	奇数月に6回開催(5月以外は書面送付)している。入居状況、ホーム活動や身体拘束適正化委員会の議事録を報告し、メンバーからは感謝の言葉や身体拘束に関する体験談等が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点などに関しては市町村の担当職員に電話等で相談している。生活保護受給者の受入れも行っている為生活保護課との連携を図っている	介護認定更新手続きの他、生活保護受給者の自己負担等について相談している。地域包括支援センターと入居状況の情報等を共有している。市主催の感染症対応の研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束委員会を開催し、推進会議にて議題にし、皆で話し合い、身体拘束について理解することで毎日のケアに取り組んでいる	3カ月に1回身体拘束適正化委員会を開催している。マニュアルの確認と事例検討を話し合い、議事録を職員及び推進会議のメンバーに伝えている。現在帰宅願望の方はいないが、寄り添い傾聴すること、家族と電話で話すこと等で対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや身体拘束委員会にて虐待について学んだり話し合い、又職員間で声かけし合うことで虐待防止に努めている	高齢者虐待防止に関する資料に基づき研修している。気づいた事を管理者に報告し、内容により情報を共有し、ケアに活かす仕組みとしている。「追い詰める言葉掛けをしない」「お互いに助け合う」を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得のための研修等には参加しているが外部研修で学ぶ機会が少なく活用できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を元に説明させて頂き同意を得、疑問や不安などに対してはその都度説明しご理解を頂いている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や通院等の際に要望や意見を頂き運営に反映するよう努めている	利用料支払い時、家族から衣替えや嗜好品が届けられる。コロナの発生があり、外出を控え、面会は玄関に限定している。家族から「一緒に葬儀に行きたい」との要望があり対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見や提案を聞き、ミーティング等で確認し可能な限り反映している	職員の要望で、エアコンや掃除機を買い替えた。資格取得の希望は、費用負担とシフト調整で対応している。ウッドデッキ老朽化の意見に、今後避難経路の方向も含めて、改修を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の成果を把握し、皆がやりがいなどを持つ就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や職員会議での内部研修を行い研修を受ける機会を確保している		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大防止の為同業者との交流は自粛しているが同法人の居宅介護支援の職員と情報を共有し、サービスの向上に努めている	コロナ発生があり、外部同業者との交流は自粛している。同法人の居宅介護支援職員と内部研修(身体拘束・虐待)を合同で行ったり、消防訓練は連携している。調剤薬局に投薬方法などを相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が安心して過ごせるように声がけを常に行い、職員間でそれを共有し不安なく過ごせるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に家族が不安に感じることや要望等を聞き出し安心して生活して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が必要としている支援や要望等を判断し支援を行うよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人を支えていく関係を築きながら利用者・家族・職員間で信頼関係を築いている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に状況を説明し、又病院等の受診の際には可能な限り家族に同行をお願いし、共に本人を支えていく関係を築くようにしている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為面会制限はあるが出来る限り関係が途切れないよう支援に努めている	家族や友人と、電話や手紙の取次等で関係が途切れないよう支援している。月1回訪れる訪問医や理容師と馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握するように努め、プライバシーを保ちながらレクリエーションなどの参加を促し部屋に閉じこもったり、孤独にならないように声掛けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院等に入院された場合にも主治医と相談しながら情報提供や必要とする各機関への連絡や調整を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の意向や希望を把握し職員間でそれを共有し、出来るだけ本人が選択できるようにしている。また意思が伝えることが難しい利用者様には思いを汲み取れるように取り組んでいる	日常生活の中で、個々の気持ちに寄り添い、話を聞くように努めている。意思表示の困難な方は動作や表情から推察し、ゼスチャーを交え、選択肢を提示し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の方から本人のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活状況を聞き、ホームでの生活に反映できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する力等については把握し、出来ることはご自身で行って頂くよう努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に、本人・家族・医師・担当者から要望や意見を聞き現状に即した介護計画を作成し、状況が変化した場合に随時見直しを行っている	介護計画の見直しは短期3ヵ月、長期6ヵ月である。モニタリングを行い、ケアマネや担当者及び家族を交えて話し合い、短期目標を修正している。転倒骨折等、状態に変化があった場合は、随時見直し変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活の様子などを個々に容体表に記録し、毎日の申し送りや職員会議で話し合いを行い現状に即した介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望は何かを常に意識し支援を行い、職員間で話し合うことで柔軟な支援ができるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の暮らしを支えている地域資源を把握するように努め本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を優先し入居前の病院の継続も可能にし、訪問診察を行っている方もいる。大体の方がホームにて月に一回の定期診察を行っている。又体調変化時には主治医の意見をもらい対応している	殆どの入居者は、月1回訪問医の診察を受けている。専門医の受診は家族対応であるが、状況により職員が同行する。車椅子の方は、ホームの車両で送迎する等の支援をしている。看護職員を配置している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に看護師に状況を伝え、相談し指示を仰ぎ利用者が適切な受診が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は家族と主治医との話し合いにて決定している。入院中や退院時には医療連携室の相談員と相談し状況の把握を行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りや医療行為ができない旨説明している。状態に変化がみられた際は主治医と家族が話し合い家族の意向を尊重し事業所と主治医が一体となりチームケアに取り組んでいる	看取りに関するマニュアルを明文化している。状態の急変や重度化した際は、主治医から家族に説明し、家族の意向を尊重する対応をしている。家族の要望で、看取りマニュアルに基づき対応を検討した例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えてマニュアルに沿った内部研修等を行っている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練をコロナ前は消防署、地域住民立ち合いのもと年2回行っていたが現在はホーム内にて避難経路の確認等をおこなっている	夜間想定で2回実施している。訓練後、反省点や改善点を話し合い、次回の訓練に反映するよう努めている。「2回目は想定を変えてはどうか」の意見があった。備蓄は3日分を保有し、発電機も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援する際には声かけや対応に気を配り利用者の自尊心を傷付けないように心掛けている。	名前は「さん」付けを基本としているが、本人の希望で「ちゃん」で呼ぶ方もいる。入室はノックや声掛けを職員は共有している。入浴や排泄介助は可能な限り同性介助とし、羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を話しやすい雰囲気づくりをしている。又本人やご家族の希望を聞き実現できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活に大まかな流れはあるがその日の入居者様の状態や希望を聞きながらその方のペースに合った1日を過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が希望された際には訪問理容の方に来ていただき散髪を行ったり、衣類等については本人の希望を聞きご家族に依頼し持参して頂き本人が満足できるよう支援している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の片づけ等を行ったり、セレクトメニューとして旬の食材や利用者の好きな物を聞きだし提供している	献立は入居者の好みや季節の食材を取り入れ、職員が作る。行事食で寿司を外注したり、流しそうめんや弁当箱に色とりどりのおかずと一緒に詰め、食事を楽しんでいる。献立を栄養士や保健師に相談されたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や1日の水分摂取量を記録し体調管理を行い、また主治医に食事形態や栄養状態等を相談し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや介助にて口腔ケアを行い、口腔ケア用品もその方のあったケアを行っている。また食事の前に口の体操などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄記録をとることで排泄のパターンなどを把握し声がけや誘導をできるだけ自立できるよう支援を行っている	1/3の方が自立している。排泄チェック表及び個々の排泄パターンや水分摂取量を把握して誘導し、トイレでの排泄に努めている。夜間は安眠を優先し、巡回時様子を見ながらオムツ交換や声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のおやつに乳製品を提供したり、軽運動を行い、各自の排便状況を記録し把握している。排便コントロールの難しい方は主治医に相談し整腸剤等を処方して頂き便状態を観察し申し送り等で共有している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は週2回午前中を基本としているが、入居者の希望や状況により時間をずらし行っている。また香りのよい入浴剤を使用し入浴を楽しめるよう工夫している	週2回午前中の入浴であるが、本人の希望や体調を考慮して時間をずらすこともある。シャワー浴専用の設備があり、全介助の方は2人体制で支援している。入浴剤の色や香りで温泉気分を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や状況に合わせて起床時間、就寝時間等を考慮し、また良眠できるように室温等も定期的に確認するよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方薬の目的や用途などを写真付きでリストを作成し常に確認するようにしている。また薬の変更等があった場合は観察し、主治医に報告や相談をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の能力やできる範囲に合わせて調理関係や洗濯たたみ、また編み物など毎日楽しく生活できるよう支援している		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止の為外出は通院や市内のドライブのみとなっているがホームの庭にてベンチに座り日向ぼっこされたりしている。	コロナの影響で外出を自粛している。玄関ホールのベンチで日向ぼっこをしたり、天気の良い日に庭を散歩して気分転換をしている。例年季節を感じる外出として、日和山や須江の桜並木へ行っていたが、今年は近くの公園の桜を車窓から眺めた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的に事務所の金庫にて管理し、使用の際は来ずお小遣い帳に記載し家族に確認して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙が来た場合は本人に取り次ぎ会話を楽しまれてる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁画や入居者様の作った作品等を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。またエアコンで室内の温度を保ち加湿器等で乾燥をふせいでいる	リビングはエアコンと加湿器で適温・適湿に保たれている。玄関ホールや廊下等共用場所に入居者の作品や小学校からの便り等が飾ってある。クリスマスツリーの貼り絵が季節を感じる。テレビで歌番組や時代劇のDVDを観て過ごす方が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは皆で歌を唄ったりレクの参加や個々で編み物や塗り絵などを行い過ごされている。本人の希望により自室で過ごせるよう支援を行っている		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や位牌など本人の過ごしやすい工夫がされている。身体状況によってベットやエアーマット、手すり等がある	備品は電動ベッドやエアコン、テレビがある。家族写真や遺影、誕生会の色紙や行事の写真等を飾り、思い思いの自分の居室となっている。殆どの方はリビングで過ごすことが多く、居室に居る時間は少ない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりがついている。また個人の身体状況に応じて手引き歩行やカート・自走式車いすなどを使用することで自立した生活が送れるよう工夫している		